

平成21年9月29日

各 位

積水ハウス株式会社

住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポート
「view point」vol.03 発行
「イマドキの共働き家庭」～スムーズ家事で家族時間と自分時間～

この度、積水ハウス株式会社は、住まいに関する多角度からの調査・研究成果をもとに、住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポート「view point」の第3号を発信いたします。

積水ハウスでは、近年、女性の社会進出に対する意識や経済情勢の変化等により増加している共働き家庭に焦点をあて、“イマドキの共働き家庭とは”をテーマに独自のアンケート調査を実施しました。今号では、とくに20～30歳代の“イマドキの共働き家庭”の実態を把握するとともに、当社がこれまで培ってきたライフスタイル提案とあわせて、家族がお互いの時間を確保でき、またスムーズに家事がこなせる、住まいの設計工夫を紹介しています。

view point vol.03

「イマドキの共働き家庭」～スムーズ家事で家族時間と自分時間～

- Chapter1 共働きを続けたい！！…でも家族と自分の時間も大事
- Chapter2 共働き家庭のキーワードは「家スタンバイ」と「夜家事」
- 家事がスムーズにこなせ、家族の時間や自分の時間を確保できる住まいの設計事例

今後も積水ハウスでは、総合住宅研究所においてこれまで実施してきた多分野にわたる調査・研究によって得られた蓄積データをもとに、生活者の話題となり、住まいづくりや暮らしに役立つ、わかりやすい情報をレポートや冊子にまとめ、定期的に発信してまいります。

<総合住宅研究所>

関西文化学術研究都市にある京都府木津川市に位置する積水ハウスの研究所。住宅の建築技術を担う「技術研究所」、人々の住まい方・暮らしについて提案する「住生活研究所」、体験学習施設である「納得工房」という3つの部門より構成されている。中でも、「住生活研究所」では、人と暮らしの視点から住まいのあり方について調査・研究に取り組み、快眠研究や子ども住環境研究、ユニバーサルデザインやシニア居住研究から、防犯防災対策、家庭菜園など、住まい手にとって有意義な情報の発信や住まいづくりの支援を行っている。

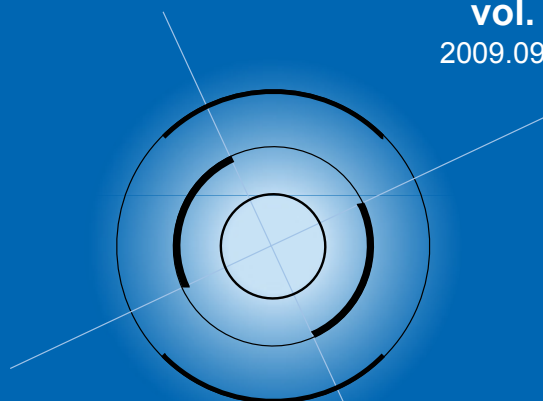
<本件のお問合せ先>

積水ハウス株式会社 広報部

(大 阪) 06-6440-3021 (東 京) 03-5575-1740

Email : info-ir@qz.sekisuihouse.co.jp

積水ハウス株式会社 住生活研究所では、人と暮らしの視点から住まいのあり方について調査・研究に取り組んでいます。多角度からの調査・研究によって得られた成果をもとに、生活者の話題となり、住まいづくりや暮らしに役立つ、わかりやすい情報をレポートとして発信いたします。



「イマドキの共働き家庭」 ～スムーズ家事で家族時間と自分時間～

Chapter 1

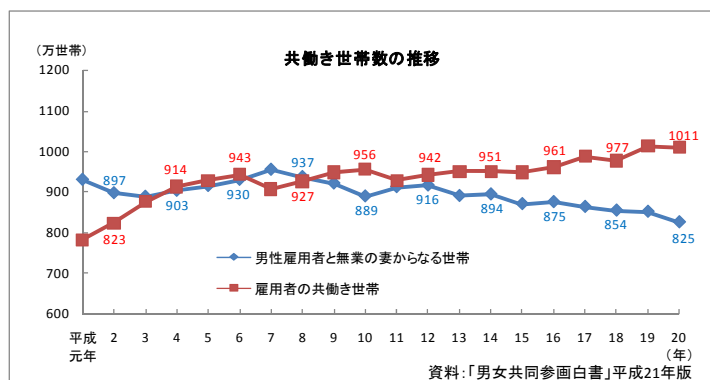
共働きを続けたい！！
…でも家族と自分の時間も大事

Chapter 2

共働き家庭のキーワードは
「家スタンプイ」と「夜家事」

家事がスムーズにこなせ、家族の時間や自分の時間を確保できる住まいの設計事例

近年、共働きの世帯数が増えてきている。男女共同参画白書によると、男女共同参画社会基本法が施行された平成11年以降、共働き世帯数と専業主婦世帯数の差は年々広がってきている。この背景には、女性の社会進出や経済情勢の変化などが挙げられるが、今や“夫は外で働き、妻は家庭を守る”という考え方は薄れつつあると言える。



最近では「ワークライフバランス」や、男性の家事・育児参加への関心も高まりつつあり、“夫婦関係も対等であるべき”という価値観が根付いてきたのではないだろうか。

今回、積水ハウスでは、20～30歳代の共働き家庭を対象にしたアンケートを行い、彼らの暮らしにおけるニーズを調査した。日々忙しい生活を送る共働き家庭にとって、暮らしの中で大切にしているもの、関心が高いものとは何か、また仕事をしながらどのように家事をこなしているのだろうか。

その結果、今後も共働きを続けたいとする夫婦が圧倒的多数を占め、また家族の時間も自分の時間も大切にしながら、段取りよく家事をこなしていることがわかった。特に「炊事」「洗濯」「掃除」においては家事代行サービスなどを利用したいと思っている家庭が多く、イマドキの共働き家庭の実態が浮かび上がってきた。

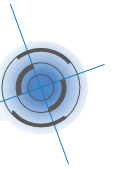


家族の時間・・・



自分の時間・・・

積水ハウスでは、これまで培ってきたライフスタイル提案やイマドキの共働き家庭の実態をもとに、家事がスムーズにこなせ、家族がお互いの時間を確保できる住まいの設計工夫を紹介する。



Chapter 1

共働きを続けたい！！…でも、家族と自分の時間も大事

積水ハウスが、夫婦ともにフルタイムで働く20～30歳代の生活者を対象にアンケート調査を行ったところ、イマドキの共働き家庭における暮らしの実態が浮かび上がってきた。

共働きの継続意向について聞くと、男性の80%、女性の92%が、今後も共働きを続けたいと考えている。<グラフ1> 住まい手の意識や価値観が大きく変化しており、共働きは一時的なライフスタイルではなく、**共働きは一時的なライフスタイルではなく**な**ってきていることがうかがえる**。

また、共働き家庭が暮らしの中でもっとも大切にしている時間は、「家族とのだんらん」が一番多く、男女とも約半数を占めている。<グラフ2> 具体的には、一緒に夕食を作ったり、食べたりしながらの会話や、家族みんなで入浴しながらの会話という回答もあり、**限られた空間や時間の中でも家族が触れ合えるシーンを大切にしていることがわかる**。

だんらんに次いで大切にしたい時間は、男性が「自分の趣味」、女性は「疲れを癒し、リラックス」となり、男女で異なる結果となった。しかし、その具体的な内容を見てみると、共通のニーズがあることがわかった。「自分の趣味」では、パソコンや読書、資格の勉強など、夜に一人静かにすることの回答が多く、「疲れを癒し、リラックス」でも、入浴やヨガなどのほか、パソコンや読書など、やはり夜に一人静かにすることの回答が多かった。

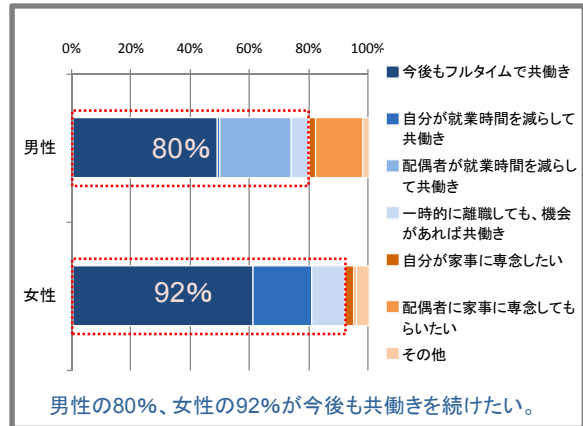
仕事での疲れの癒し方は人により異なるが、家族とのだんらんとを大事にしながら、一人になる時間と空間もまた大切にしたいことがわかる。

家事に関する意識をたずねたところ、20代後半の世代は、「家事は効率よく適度に済ませたい」「忙しくても家族との時間を持つ努力をすべき」と考えている割合が他の世代よりも高い。<グラフ3>

彼らの短縮したい時間は、料理の準備や片づけの時間であり、1週間分のおかずの作り置きや、惣菜の積極利用、夫婦2人で料理するなど、さまざまな工夫をして上手く家族の時間を確保している。

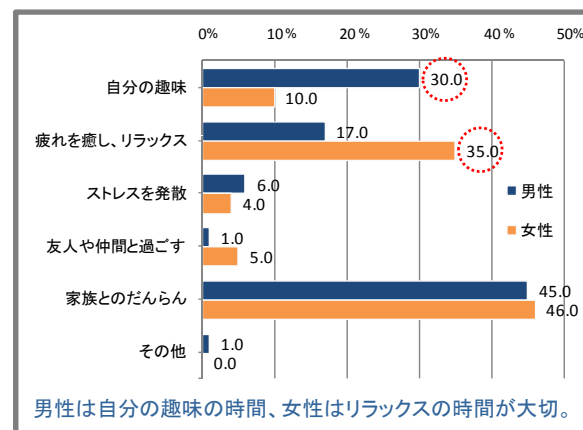
住まいには、家族と過ごす空間と夫婦それぞれの領域のバランスが大事。

これからも共働きを続けたいですか？



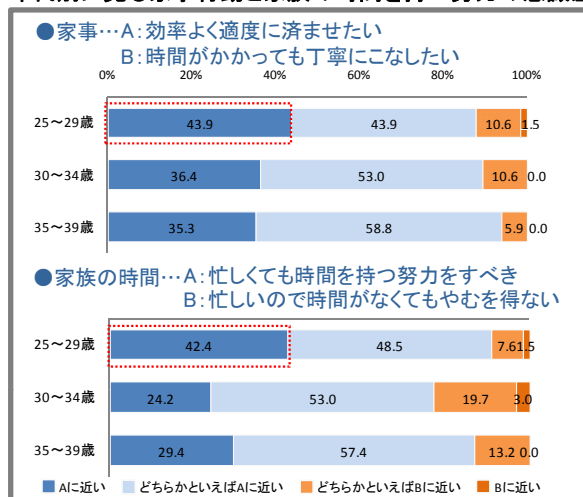
<グラフ1> 積水ハウス 共働き家庭の生活実態調査 2009 ※次頁参照

暮らしの中でもっとも大切にしている時間は？

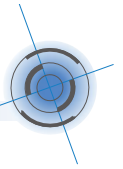


<グラフ2> 積水ハウス 共働き家庭の生活実態調査 2009

年代別に見る家事行動と家族の時間を持つ努力の意識差は？



<グラフ3> 積水ハウス 共働き家庭の生活実態調査 2009



Chapter 2

共働き家庭のキーワードは「家スタンバイ」と「夜家事」

共働き家庭では、多少金銭的な負担が大きくなって約55%が新たな外部サービスを利用したいと考えている。<グラフ4> もっともニーズが高いのは、食材の宅配サービスであり、日々の買い物をする時間を効率化したい意向がうかがえる。

次いで、携帯電話での家電遠隔制御のサービスが多く、遠隔操作で風呂を沸かしたり、空調を入れておくなど、**帰宅前に「家をスタンバイ」させておくことに関心が高い**。宅配による食材の事前手配も含め、日中留守にしている共働き家庭ならではの段取りよい家事を目指す姿が浮き彫りになった。

サービスだけではない。便利な設備や道具も活用したいと考えている。<グラフ5> 現在持っていないが今後活用したい設備や道具は、食器洗い機、乾燥機、つき洗濯機に次いでお掃除ロボットが第3位。共働き家庭での掃除スタイルは、週にまとめて1度掃除機をかけるというのが一般的。お掃除ロボットが普段からこまめに床を掃除してくれれば、休日のまとめ掃除は不要になるかもしれない。

洗濯については、行う時間帯と干し場についても聞いた。平日、17時～23時台に洗濯を行う割合は、専業主婦家庭の15%に対して、**共働き家庭では52%と半数を超えている**ことがわかる。<グラフ6> 洗濯物を干す場所については、室内に干す割合は専業主婦家庭の15%に対し、共働き家庭では40%にもなっている。

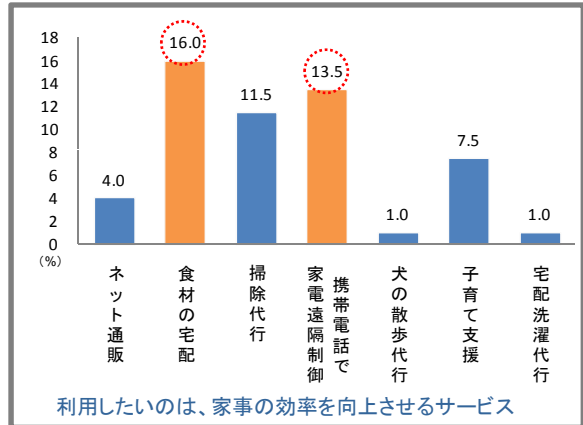
ただし、室内干しといってもリビングなどの居室に干すケースが多いため、“湿ったニオイがこもる”、“部屋が散らかる”などの不満が多く見られ、仕方なく室内干しをしている様子が見られる。

また、洗濯の一連行為の中で、ただで仕舞う作業が億劫だという人や、できればなくしたいという声もあって、乾いた後は、そのままクローゼットの役目を果たすような便利な使い方ができる干し場があると、洗濯行為はぐっとスムーズになるはずだ。

洗濯空間には、騒音や振動への配慮、脱臭、除湿などの機能的な設備を採用するなど、夜に気兼ねなく洗濯し、気持ちよく干せる環境が大切である。

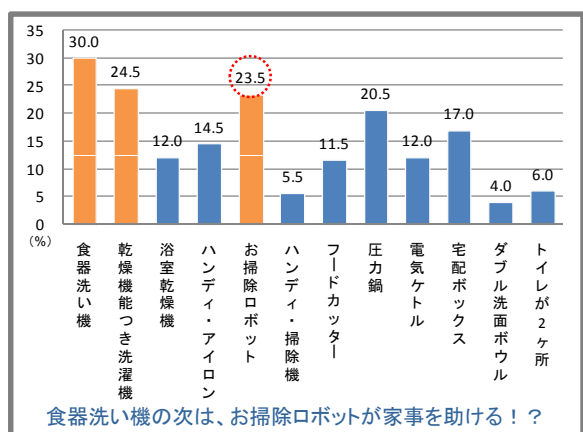
日中「家スタンバイ」や夜間作業が前提の家事空間づくりが、新たなニーズになる。

現在利用していないが、今後利用したいサービスは？



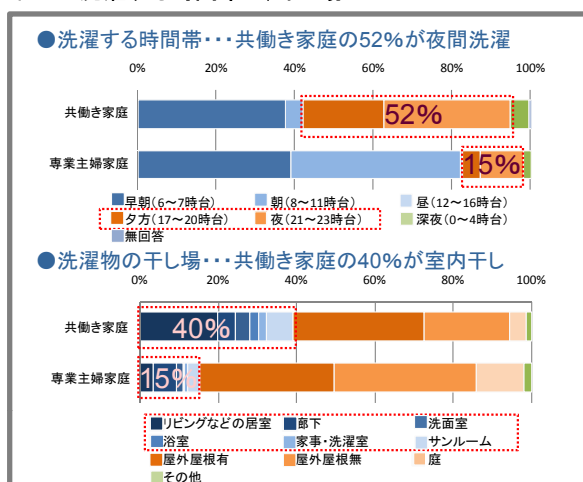
<グラフ4> 積水ハウス 共働き家庭の生活実態調査 2009

現在所有していないが、今後活用したい設備や道具は？



<グラフ5> 積水ハウス 共働き家庭の生活実態調査 2009

平日に洗濯する時間帯と、干し場は？



<グラフ6> 積水ハウス 家庭生活と住まいに関する調査 2008

SEKISUI HOUSE

※調査概要

<グラフ1>～<グラフ5> 調査名称:「共働き家庭の生活実態調査 2009」 調査対象:フルタイムで共働きしている25～39歳 男女 n=200 調査時期:2009年8月
調査地域:全国 調査方法:インターネット調査 / <グラフ6> 調査名称:「家庭生活と住まいに関する調査 2008」 調査対象:共働きしている25～39歳 男女 n=517
調査時期:2007年11月 調査地域:全国 調査方法:インターネット調査

●積水ハウスが提案する

「家事がスムーズにこなせ、家族の時間や自分の時間を確保できる住まいの設計事例」



1階

水まわりが一直線の家事ラク動線

キッチンから洗面室・浴室までの動線がスムーズに。家事コーナーを設け、忙しい合間にもちょっとした自分の時間と空間を確保！また休日にまとめて買い込んだ食材を保管できるパントリーも設けています。

家族がつながるキッチンとカフェコーナー

お料理や片づけをしながら家族と会話できる対面キッチン。腰壁を少し高くしているので手元の散らかり具合を見せない工夫がされています。またダイニングに椅子ではなく、ソファを設ける提案。家族みんなが食べるシーンからくつろぐシーンへ自然と移行できます。

家族が集う床座リビング

忙しい毎日だからこそ、家族で過ごす時間を大切にしたい！みんなでテレビを見たり、寝そべて本を読んだり、うたた寝したり・・・家族が思い思いにくつろげる床座スタイルのリビング。小さなお子さまのいるご家庭には特におすすめです。

左右で使い分けできるウォークインクローゼット

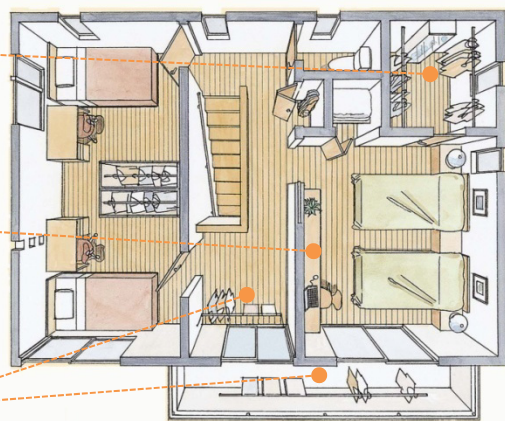
ウォークインクローゼット内を左右に分けることで、右は奥様、左は御主人という具合に、夫婦で使い分けが可能です。それぞれが自分の衣類を整理し、管理できます。

寝室に設置された作り付けカウンター

広めの寝室に作り付けのカウンターを設け、寝る前のひとときを静かに過ごすコーナーに。ご主人がネットサーフィンや奥さまの集中スキンケアなど使い方は様々です。

外干しも室内干しもラクラク切り替え

お隣の視線をカットしながら洗濯物が干せるハイウォールバルコニー。室内側には、雨の日も洗濯物が干せる専用のスペースを用意。日中忙しい共働き家庭でも、夜間に気兼ねなく洗濯物を干すことができます。



2階

暮らしと住まいの研究を通じて、一人ひとりの豊かな暮らしと住まいをプロデュースする
積水ハウス 総合住宅研究所／住生活研究所

一人ひとりの豊かな暮らしと住まいの創出を目標に、居住環境と住まい手の関係を、人間生活工学や、心理、生理的な側面から研究。また、家族のあり方や生活スタイルなどから時代ニーズを捉えた調査研究を行い、住まいづくりや街づくりに活かしています。



総合住宅研究所(京都府木津川市)

本レポートに関するお問合せ先

積水ハウス株式会社 広報部

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル タワーイースト

Tel:06-6440-3021 Email:info-ir@qz.sekisuihouse.co.jp